

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：34511

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03117

研究課題名(和文)西播磨小藩・旗本領における領主支配と地域社会構造の歴史的研究

研究課題名(英文)Historical study of social structure at feudal domain in West Harima

研究代表者

今井 修平 (Imai, Shuuhei)

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：00131540

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：近世西播磨の外様小大名、三日月藩の藩庁文書、大庄屋文書および陣屋元の旧武家屋敷に現存する小林家文書、竹内家文書を調査し、竹内家文書については古文書目録と翻刻集を刊行した。そこからは小規模ながら陣屋と在地する家臣団、近接する宿場町を中心になされる地域運営の実態と、藩主の江戸参勤、駿府城勤番に随行する下級家臣の記録を通じて播磨の一地域と中央との繋がりがある程度判明した。在地する家臣団の地域社会でのあり方の一端も解明できた。大庄屋支配については個別領主支配ごとに職責に相違があることも明確となった。触留帳の分析からは幕府からの触れ伝達の方法が個別領主によって異なることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世における西播磨の地域的特質を、領主支配と地域行政に焦点を当てて検討し、幕府の広域行政支配の強い非領国地域であっても西播磨では小藩や旗本領が陣屋町を拠点に独立性のある地域的纏まりによって個別領主支配を実現していたことを解明した。また大庄屋の役割や幕府の公儀触れの伝達方法にも個別領主支配ごとに異なることも判明した。また三日月藩(森家)下級家臣の武家屋敷に伝存する古文書の発見により、在地する家臣(武士)の地域社会との日常的、経済的な関わりの具体相も明らかとなった。さらに藩主の江戸参勤や駿府城勤番に随行する下級家臣に記録からも中央と地方の関係が読み取れた。

研究成果の概要(英文)：This analysed Mikazuki domain and community, vassals of the Mikazuki Mori family, and administratively activities of the lower vassal Takeuti family.

Those are related to investigation of the ruling system in a small feudal domain in West Harima province in early modern Japan.

研究分野：日本近世史

キーワード：三日月藩(森家) 在地下級家臣 陣屋町 平福(松井家)領 駿府城勤番 公儀触の伝達 大庄屋支配 郡中入用

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近世幕藩制社会における畿内近国は経済的先進地域であるだけでなく、所領配置が錯綜する非領国地域として、個別領主支配よりも幕府の広域支配の強さが強調されてきた。その一方で個別領主による年貢収取を中心とする封建的領主支配の特色についても注目されるようになり小藩領や旗本領の個別領主支配のあり方についての研究が進展してきた。ただし研究対象地域は畿内近国のうちでも摂津・河内・和泉に限定されており、播磨については非領国地域としての研究は不十分であった。

もっとも東播磨については個別にいくつかの優れた研究成果が見られ、摂河泉に類似する特色が明らかになっている。また中播磨については姫路藩についての研究蓄積があり、自治体史においても学術的水準の高い『姫路市史』『加古川市史』『福崎町史』『高砂市史』が刊行されている。それに対し西播磨に関しては基礎的研究も未着手の状況にある。西播磨の大部分を占める平福、山崎、三日月、安志、新宮の陣屋持大名・旗本領については本格的な調査研究は行われていないのが現状である。

また近年、研究が深まりつつある近世地域社会論においては大庄屋などの中間層による地域運営システムの形成と政治権力の関わりの解明が課題となっており、複数の小藩・旗本領で構成されている西播磨の地域的特性は地域社会論の研究にとって格好の研究対象でもある。

2. 研究の目的

西播磨に特徴的な小規模な領域的纏まりを持つ小藩・旗本領の個別領主としての領主支配のあり方、固有の大庄屋機能、陣屋町の住民構成とその変遷、地域社会における経済機能、後背地域を構成する山間部を含めた地域の生業、それらを包括する地域社会構造と幕府の広域支配の関わりを平福松井家領、山崎藩領、三日月藩領を対象に具体的実態を解明し、近世の地域社会研究に新たな論点を提示する。

3. 研究の方法

兵庫県立歴史博物館、宍粟市教育委員会、佐用町教育委員会の協力を得て西播磨の平福、山崎、三日月の大庄屋文書、町方文書、武家文書を写真撮影し、応募者・研究分担者でデータを共有して解読、分析をおこなった。国立公文書館等の公共機関所蔵の藩主家文書の調査・写真撮影も行ない、研究会を開催して論点を共有し研究成果の集大成を目指した。また宍粟市教育委員会、佐用町教育委員会と協議して古文書の保全活用と研究成果公表のための公開講演会を開催した。

具体的には2017年8月9、10日両日にわたり大学院生4名の協力を得て佐用町役場上月支所に委託・保管されている三日月藩(乃井野藩)家臣、小林家文書の写真撮影を実施した。さらに8月25日には研究代表者・研究分担者全員および近代史専門の久野洋氏の参加を要請し、同所に委託・保管されている、三日月藩(乃井野藩)森家の藩政史料(列祖神社文書)、森家家臣の小林家文書、大庄屋江見家文書、櫛田村庄屋文書、下櫛田村庄屋文書、上月組大庄屋大谷家文書を調査し、古文書の写真撮影を実施した。8月26日には乃井野地区に現存する武家屋敷、竹内邸において古文書調査と聞き取り調査をおこなった。引き続き11月5日及び2018年3月30、31両日に竹内邸において古文書調査、写真撮影を実施した。これらの文書は研究代表者・分担者・協力者でデジタル化した写真を共有し、それぞれのテーマに応じて解読、翻刻をすすめた。7月30、31日には佐用町役場上月支所において三日月藩藩庁文書(列祖神社文書)のうち藩日記、家臣団分限帳、駿府城勤番関係文書を写真撮影した。竹内

家文書には駿府勤番に随行した詳細な勤務記録があり、藩庁文書と照合することで幕府から小藩に課せられる役負担と西播磨の地域社会の関わりを解明しようと試みた。また、前回調査で保留していた竹内家に残る多数の槍術、馬術、弓術、剣術、砲術の免許目録を全点調査し、近世後期における小藩下級家臣の武家としての在り方の一端を解明しつつある。

そのほか 岡山大学、岡山県立博物館、鳥取県立博物館、国立公文書館所蔵の池田家文書、森家文書、松井松平家文書の調査、写真撮影をおこなった。

4．研究成果

研究成果として最も中心となるのは竹内家文書の発見である。

三日月藩森家は元禄10年(1697)森対馬守長俊が播磨国佐用郡に1万5千石で入封して成立し、明治4年(1871)の廃藩置県まで存続した西播磨の小藩である。陣屋が置かれたのは乃井野で武家屋敷街が形成されているため乃井野藩と称されるべきであるが、隣接する美作街道の宿場町三日月が城下町的な機能を果たしており一般的には三日月藩と称されている。

乃井野地区には旧武家屋敷が数軒現存しており、調査を進めるなかで竹内家と小林家に古文書が残されていることが判明した。竹内家のご子孫の協力を得て調査をおこない、古文書目録と翻刻集を刊行した。

- ・『播州三日月藩家臣竹内家文書翻刻集』(全98頁 2020年3月)
- ・『播州三日月藩家臣竹内家文書目録』(全38頁 2020年3月)

竹内家は扶持米取りの「御徒士」身分であり、下級武士ともいえる武家の文書は極めて珍しいといえる。これまでの藩政史研究は藩庁文書か大名家の文書、あるいは家老クラスの家臣の文書に依拠して行われていた。それゆえ10石2人扶持ほどの少禄の武家文書が伝存していること自体が稀有なのである。この文書によって西播磨の小藩において国元の地域社会に在地している武士の生活実態の一端を解明することができた。

さらにこの竹内家文書には、藩政・藩財政や百姓・町人と関わる内容の文書も含まれている。たとえば「寛政十二年 御供御道中御定法渡方帳写」と「天保八年 江戸御家中惣渡方御定法帳写」は藩主の江戸参勤に随行した家臣に支給される諸経費や物品、人足・小者を書きあげたものである。また「安政五年 駿府御日記之内より書抜并聞書控」は藩主が駿府城の勤番を務めたときの随行記録である。三日月藩の藩庁文書には江戸参勤や駿府勤番を務めた時の記録が多数残されているが、その主な内容は幕府と藩のやり取りに関するものである。それに対し、竹内家文書には随行する徒士身分の立場で記されており実態が具体的に判明する。また竹内家当主の役職の変遷や相続に関する文書での「家」関係の文書によれば、身分は「徒士」ではあったが財務に長けていたらしく、役職としては「御勝手向御取締」や「御台所奉行」、「御蔵奉行」を歴任し財務官僚的な性格が強かったことが判る。その一方で武術にも長けており、三日月藩森家を発祥とする祭神流槍術をはじめ弓術、砲術の免許状や目録が多数残されている。また幕末期の幕府からの海防強化の指示を受けて藩内で武備強化に努めた様相も窺える。そのほか、分析は今後の課題であるが、竹内家自身が武士や百姓町人を相手に貸付を行っていたと思われる帳簿が多数あり、また百姓身分の人物を名代(名義人)にして土地集積を行っていたことをうかがわせる文書も残されている。明治以降、竹内家は学校や銀行の創設など地域の近代化に貢献し政治の世界にも進出している。畿内非領国地域ではそうした活動の担う名望家は豪農豪商層であることが一般的であるが、小藩の陣屋元に居住している下級武士がそれを担っているところに西播磨の地域的特質が顕れていることが判明した。

「御徒士」と称される平均的な武士が在地して地域社会で生活し、武士としての職務を果たしながら、地域の運営にも携わっていたという事実から、小規模ながらも小藩領が独自の地域的運営を実現しているという、西播磨に固有の地域的特色が窺えるのである。

研究成果の公表として、2017年9月9日には研究代表者今井と研究者分担者村田が三日月藩武家屋敷の街区が残る乃井野地区の公民館で在地に伝存する武家文書の概要と研究上の意義について講演し地域住民と座談会をおこなった。また2018年5月13日には公民館において竹内家の古文書を展示解説するとともに、地域住民を対象に「三日月藩（乃井野藩）研究の意義」について講演した。その内容は三日月地域づくり協議会によって100分のDVDに編集され関係者に配布された。さらに2019年4月14日にも佐用町主宰の武家屋敷保存活動に協力し、公民館において竹内家文書を展示・解説し、小藩領の武家と地域社会の関わりの具体相について講演をおこなった。

西播磨の大庄屋制については三日月藩・平福領の大庄屋史料をもとに郡中入用（地域運営の諸経費）の負担形態の比較分析を行い、藩領ごとに金額、費目、負担形態がそれぞれ異なること、およびそれが個別の領主による地域支配構造の差異に基づくことが判明しつつある。幕府の広域支配としての触伝達においても個別支配領域により方法が異なる事実も解明できた。そのほか、播磨一国の所領配置の変遷について近世を通じて検討し、譜代大名の役知領の多い東播磨、中規模の城付大名領の多い中播磨、外様小藩・旗本領の集中する西播磨という特色がより明確となった。

もう一軒の武家屋敷、小林家文書の解読によって、三日月藩年貢米を積み出し港の赤穂の蔵元までの搬送過程を詳細に記録した年貢米積出宰領記録を翻刻した。三日月藩に森家が入部したことにより、池田氏時代以来の播磨新宮経由の網干港積み出しから同族の赤穂藩森家の城下に年貢米搬送路を変更していたことが判明した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 村田路人	4. 巻 1
2. 論文標題 幕末期における「大坂町奉行所の広域支配と医療行政 - 種痘事業の検討から -」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『幕末期における大坂・大坂城の軍事的役割と畿内・近国』	6. 最初と最後の頁 77-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田路人	4. 巻 11
2. 論文標題 「地域の歴史へのアプローチ」の多様性『LINK』第10号を読んで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『LINK』	6. 最初と最後の頁 192-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡山志保	4. 巻 36
2. 論文標題 近世所領配置考 - 播磨国を事例として -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『神女大史学』	6. 最初と最後の頁 55-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鎌谷かおる 佐野雅規 中塚武
2. 発表標題 「近世日本における気候変動と領土支配」
3. 学会等名 日本地球惑星連合2019大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 村田 路人	4. 発行年 2019年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 448
3. 書名 『近世畿内近国支配論』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『播州三日月藩家臣竹内家文書目録』（38頁）、『播州三日月藩家臣竹内家文書翻刻集』（98頁）を刊行し、研究機関、研究者に配布した。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	東谷 智 (Higasitani Satoshi) (10434911)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	
研究分担者	鎌谷 かおる (Kamatani Kaoru) (20532899)	立命館大学・食マネジメント学部・准教授 (34315)	
研究分担者	村田 路人 (Murata Mitihito) (40144414)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	志村 洋 (Simura Hiroshi) (90272434)	関西学院大学・文学部・教授 (34504)	
研究分担者	郡山 志保 (Kooriyama Siho) (00838310)	京都外国語大学・外国語学部・非常勤講師 (34302)	